

鴨東通信

おうとうしん

ていーたいむ

祭りの文化は地方にあり
岩間香・碓田智子・西岡陽子

特別寄稿

日本の産業技術の形成過程を解明するために
三宅宏司

史料探訪29

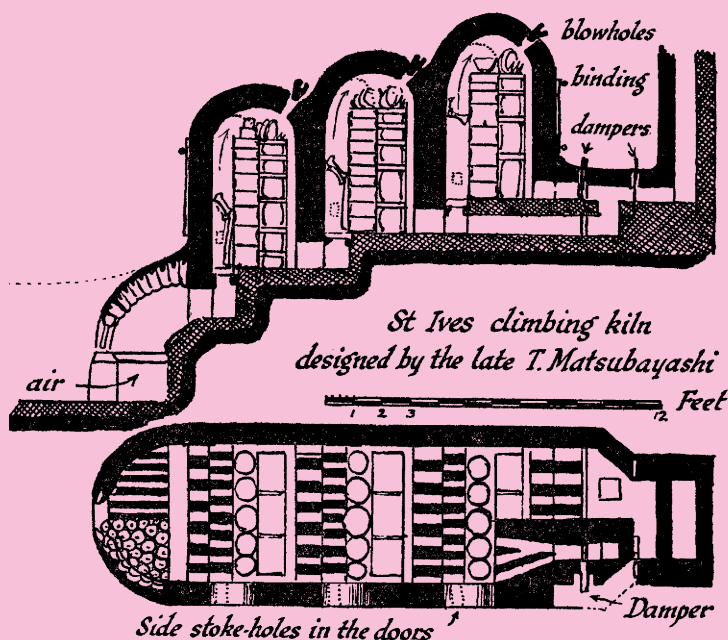
伊勢物語絵を追って
河田昌之

私のノートから

兵範記輪読会編『兵範記人名索引』と私
佐古愛己



夏



◎新刊案内◎

祭りのしつらい
近世寺社参詣の研究
兵範記人名索引
江戸時代唐船による日中文化交流
近世長崎・対外関係史料
中世・近世の村と地域社会
伝統工藝再考 京のうちそと
バーナード・リーチ再考

祭りの文化は地方にあり

岩間 香(摂南大学教授)

碓田智子(大阪教育大学准教授)

西岡陽子(大阪芸術大学教授)

■一世一代の晴れ舞台■

岩間：今回出版する岩間香・西岡陽子編『祭りのしつらい』は、全国の祭りのしつらいや祭礼時のまち並みを調査してまとめたものです。西岡先生は民俗学、碓田先生は住居学をご専攻で私は美術史です。その他に建築史・都市史・保存修景の専門家が集まりました。最初は祇園祭の屏風祭の調査から始まり、それは谷直樹・増井正哉編『まち祇園祭すまい』（思文閣出版、1994年、品切）という本になりました。その後、全国にいろいろな祭りのしつらいがあるということで、対象が地方に広がっていったのです。

地方の祭りを調査するようになって、文化観が変わりました。京都・東京だけが文化じゃないということです。富山県南砺市の城端^{じょうはな}をはじめ、地方の祭りにすばらしい文化があるということを実感しました。

碓田：城端曳山祭は平成8年から調査を続けています。その途中でまちの姿を大きく変える道路拡幅事業があり、それにとまって祭りが変化していくところに出会いました。まちの変わり方とそれに呼応して祭りの空間が徐々に変化していくようすを10年間追いつけてきました。10年前は、宵宮の城端のまちはもっと暗くて、その暗い中に山宿のあかりが浮かびあがってくるような感じでした。

西岡：山宿^{ひきやま}というのはお祭りの時に神さまを祀る家のことです。曳山を持っているまちの住人が必ず1



西岡氏

回は山宿を引き受けないといけないというようなしきたりがあり、お当番でまわってくるのです。祇園祭の会所のようないわゆる公民館的なものではなくて、

個人の住宅を使います。山宿を引き受けた家のご主人の一世一代の晴れ舞台になるので、とても念入りに飾りをするわけです。いずれ山宿がめぐってくる



岩間氏

ので、そのときのためにぼちぼち屏風を買い集めるとか、あるいはどこかから借りてくる算段をしておくとか、何年も前から周到な準備をしておきます。飾りによって山宿の主人の財力と教養がまち中から評価されますので、非常に考え抜いた飾り付けがされるわけです。

碓田：山宿は町家の続き間座敷で行いますが、座敷がないお宅はどうするかというと、山宿のために大改造をするのですね。大工さん呼んで、書院造りの座敷をつくります。土壁のような壁紙を貼り、土間に床を仮設して座敷をつくるとか、相当の費用をかけて大改造をするのです。

岩間：かつてはれっきとしたいわゆる旦那衆というおうちしか山宿はできなかったのです。それが今は、そうでなくても大改造をして山宿ができるようになりつつあるということですね。

■洗練された祭り飾り■

碓田：お店をしていて座敷がない場合は、仮設の座敷をつくって、そこに山宿の荘厳なお飾りがされる、その創意工夫がおもしろいのです。続き間の座敷に、新調した畳を縁が手前から奥まで一直線になるように敷き直して、美術でいう遠近法のような形で、一番奥に神さまを祀る。もともと奥行きが深い町家なのですが、さらに深く見えるようになります。目立たないところも山宿のご主人が工夫されます。欄間^{らんま}がない家の場合、表から見たら美しい欄

間に見える細工をするとか。その工夫を聞き出すというのが、調査の一つの眼目です。

岩間：山宿では神さまの人形が祀られています、その前がものすごく整理されているのです。屏風を壁に平行に並べて、神像の前には何にも置かない。とにかく、広さ・奥行きを見せるようにします。

西岡：非常に近代的で洗練されているので、私たちは最初、近代以降に始まったのかなと思っていたのですが、近世の末ぐらいにはこういう飾り方があったのだということが、今回他の地域の事例を調べていて分かりました。だから非常に近代的けれども、少なくとも幕末にはこういう飾り方があちこちの祭りであったかも知れないと思っています。

祇園祭の屏風祭にいろいろなバリエーションが出てきているというのは、今回刊行する『祭りのしつらい』で谷直樹先生が紹介されていますが、古いことをご存じの方に聞くと、奥行きのある座敷を使って、屏風を両側に並べて、中庭が見えるような形というのが伝統的な祇園祭の屏風祭のあり方みたいなのですね。今は通りに平行に屏風を立てた家がたくさんありますが、どうも大きなお宅を見ると中まで見通せるような形に今もなさっている。地方の城端とか、長崎くんちのニワミセを見ていると、中庭がすだれ越しに見えるというのが必須なんですね。長崎にしてもわざわざ庭を高くしてつくるんだそうです。

座敷の飾り付け、飾られた座敷そのものを見せて、ついでに中庭も見せる。普段は京都の町家というのは格子戸が降りていて、中のようにすは何も分からないのですが、祇園祭の宵山に行くと普段見ることのできない大きなお屋敷の豪華な屏風とか豪華なしつらいを、垣間見ることができる、そういう楽しみが設定されているのではないかと、いう気がしています。単に屏風だけではなくて家宝みたいなものを見せるし、蓄音機がはやった時は蓄音機を置いたりしたそうですよね。

■各地の個性豊かな屏風祭■

碓田：倉敷の屏風祭には、観光客が8万人来るのだそうです。10月の土日のたった2日間にです。倉敷屏風祭は、町おこしの一環として、かつての秋祭りの風物詩だった屏風祭を復活させたものです。

岩間：倉敷で印象的なのは、屏風祭りが野火のようにどんどん広がっていった、大原美術館でも現代アートの質の高い美術展を協賛でやるようになった。屏風祭がきっかけになって現代の美術にも影響を与えているのです。屏風祭というのは現代の美術

とは関係ないもの、あるいは古いものをがんばって守っているというイメージがありますが、新しいものを再生産しているという意味では倉敷はおもしろい事例だと思います。



碓田氏

西岡：そこで重要なポイントになるのは、江戸時代以来町民がどれだけ教養を養ったか。屏風祭協賛で現代アート展をしようという発想そのものが、ある一定の教養が必要ですね。基盤にそういうものがあるかないかで、同じ町おこしをするにしてもかなり違ってくると思います。倉敷は、豊かな経済力を背景にした町民文化が育っています。祭りには布団太鼓もあってちょっと大阪風な所もあります。

岩間：城端にしても、江戸時代以来、絹糸の集散地として京と深いつながりがありました。戦中も棟方志功はじめ画家がたくさん疎開してきたということで有名です。野村満花城まんかじょうという土地の文化人がいて、その満花城を訪ねていろんな人が来る。その人たちが残した美術品が祭りの時に飾られているのです。

碓田：輪島市くろしまの黒島もいい祭りでした。漁村で、網元のお宅があつて国指定になっています。すごいいいまち並みですし、かなりの数の屏風が出ます。

岩間：屏風祭をやっているなんてとても分からないくらいの小さな漁村です。みんなでお祭りをしていて、見物人は私たちだけという感じでしたね。

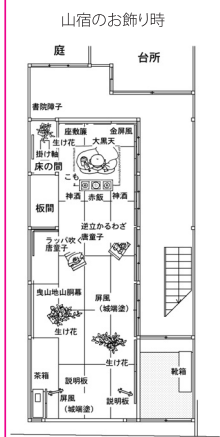
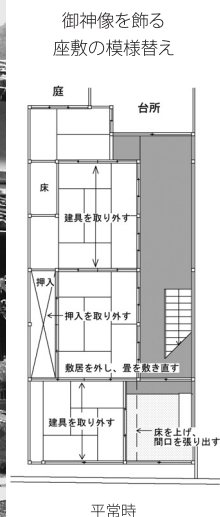
西岡：3月の地震の影響が気がかりなのですが、ほんとうに私たちにとってはぜいたくな祭りでした。黒島もかつては北前船の寄港地でした。近代に北前船がすたれると、遠洋漁業にみんな出て行って、南氷洋のおみやげとしてペンギンの剥製を持って帰り、それがきれいな屏風の前に飾ってあったりするのです。

別の祭りでは、亡くなったおじいちゃんの遺影も屏風前に飾ってある（笑）。それぞれの土地でさまざまな解釈がなされているのです。京都の祇園祭が基準になって地方に伝わって定着したというのは一応想定はできるのですが、各地の祭りの飾りはひとつとして同じものではなく、バリエーション豊かです。そして今も変化し続けています。

(2007.6.19 於：思文閣出版)

祭りのしつらい

町家とまち並み



◎本文の内容◎

座敷を飾る

—神像・家宝・造り物

絵画に見る祭りのしつらい

一屏風と棧敷

屏風祭の戦後60年

—祇園祭の宵山飾り

祭りのしつらいと町家・町並み

—大津・日野・奈良井

祭りの住文化とまちづくり

—城端·倉敷·村上

都市祭礼の最前線

—大阪天神祭

造り物の諸相

—大坂を中心に

町家とまち並みを飾る祭りの紹介(約100件)

西岡陽子
(大阪芸術大学教授)

岩間香
(摂南大学教授)

谷直樹
(大阪市立大学大学院教授)

増井正哉
(奈良女子大学教授)

碓田智子
(大阪教育大学准教授)

中嶋節子
(京都大学大学院准教授)

西岡陽子

各地の祭りの
カラー図版60頁

9月刊行

定価 2310円 (税5%込)
ISBN 978-4-7842-1360-3

B5
判
2
0
0
頁

編集 岩間香・西岡陽子
写真 京極寛



◎上写真:鞍馬の火祭
◎左写真:城端曳山祭
の山宿(恵比須)
◎上図版:城端曳山祭
の山宿の座敷

原淳一郎著

近世寺社参詣の研究

【最新刊】

人はなぜお参りするのか——古くは貴人たちの熊野詣でから寺社参詣は日本人の信仰心をあらわす一つの姿であった。本書は「寺社参詣」という行動様式そのものを研究対象の根本にすえて、江戸時代に隆盛を迎えたさまざまな寺社参詣の広がりをも思想的・文化史的立場から位置付けた一書である。

序章 戦後宗教史の流れと近世寺社参詣史／寺社参詣史の定義／問題意識と研究視角／本書の構成

第1章 近世寺社参詣における御師の役割 (宗教の社会的機能／江戸における檀廻／御師側の檀家認識／御師の檀家保有形態／檀家側の御師認識／都市型参詣における御師の役割)

第2章 参詣と巡礼 (参詣の目的別分類／参詣時期／参詣経路／坂東巡礼者の参詣経路)

第3章 相模大山への参詣意識と書物に描かれた世界 (相模大山の信仰習俗／江戸の大山参詣者像と大山講／現世利益の変容／相模大山への畏怖と魅惑／文芸作品に描かれる参詣者像／山岳信仰における自己解放の論理)

第4章 寺社参詣の大衆化——名所の複合化の成立—— (文芸作品にみえる主要参詣路と精進落とし／十七世紀後半の大山と江戸／島／柏尾通り一件と江戸島遊覧／四ツ谷茶屋をめぐる争論／大山参詣者の参詣行動の歴史的変遷)

第5章 文人層の参詣世界の大衆化——江戸島における「遊人」と庶民の結節点—— (江戸島への距離認識と女性の参詣／名所認識と参詣者の関心／行楽地的特性の歴史的変遷／庶民参詣層による文人層世界の享受)

第6章 鎌倉の再発見と歴史認識・懐古主義 (近世の歴史意識と鎌倉／都市知識人の参詣意識と行動／村落内上位層における参詣行動／名所の形成と参詣者の対応／寺社参詣と歴史意識)

第7章 成田山新勝寺の経営と宣伝活動 (成田山の宣伝基盤の確立と経営状況／成田山の宣伝活動／成田山新勝寺と成田村／神仏分離の質的差違の内在的要因)

第8章 淡島信仰にみる都市の医療と信仰 (江戸における庶民信仰と現世利益／北沢淡島明神社の流行／夢想の灸点と「流行神」現象／北沢淡島信仰の拡大と参詣圏／江戸における淡島信仰と針供養／寺社の参詣者の相互規定性)

第9章 伝承成立の歴史的考察と御師 (「片参り」忌避伝承／セット化成立の背景と参詣者意識／社会・経済的影響と富士・大山参詣の動向／「片参り」伝承の成立と宗教者の介入)

終章 (行動文化論の再検討／近世寺社参詣の位置)

▶ A5判・416頁／定価6,615円

ISBN978-4-7842-1363-4

はら・じゅんいちろう…1974年神奈川県秦野市生まれ。2003年慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。現在慶應義塾大学・宇都宮大学・獨協医科大学兼任講師。



日本近世地誌編纂史研究

白井哲哉著

思文閣史学叢書

地誌の記述形式や編纂活動・体制などの分析を通じて、編纂という文化的行為の側面を明かし、その成立と展開過程について全体像の提示を試みた一書。

▶ A5判・386頁／定価9,660円

ISBN4-7842-1180-2

近世の学びと遊び

竹下喜久男著

佛教大学鷹陵文化叢書

18世紀以降の遊学熱や嗜みとしての遊びの流行など、地域との関わりを考慮しながら具体的に紹介し、生活圏内に結実した学びと遊びの文化を明かす。

▶ 46判・420頁／定価2,625円

ISBN4-7842-1184-5

十九世紀日本の園芸文化

江戸と東京、植木屋の周辺

平野 恵 著

従来の園芸史では言及されなかった本草学・見世物研究分野を視野に入れ、化政期の狂歌界との関連を指摘するなど「園芸文化」という新領域を開拓する。

▶ A5判・544頁／定価6,825円

ISBN4-7842-1292-2

視覚の一九世紀 人間・技術・文明

横山俊夫編

視覚という世界の広がりや視覚メディアを中心とした19世紀の文明的行為の研究。[内容目次]「文明人」の視覚／平地劇から舞台劇へ／蔵書家の視界／ナポレオンのコルベール／明治写真考／チョンキナ／富士の近代 ほか

▶ A5判・464頁／定価6,090円

ISBN4-7842-0700-7

近世京都の都市と民衆

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編さん時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都都市論を展開

▶ A5判・390頁／定価8,190円

ISBN4-7842-1034-2

江戸時代の図書流通

長友千代治著

佛教大学鷹陵文化叢書

江戸時代には、京・大坂・江戸を中心とした出版文化の隆盛に伴い、幅広い図書流通がみられるようになった。版元・本屋・貸本屋と読者を結ぶさまざまなルートなど、豊富な図版(130点余)を通して平易に明かす。

▶ 46判・324頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1119-5

八瀬童子 歴史と文化

宇野日出生著

八瀬童子の苦難にみちた激動の歩み、そして今に伝わる思想・行動を歴史に裏付けられた「文化」としてとらえた一書。

▶ 46判・210頁／定価1,890円

ISBN978-4-7842-1352-8

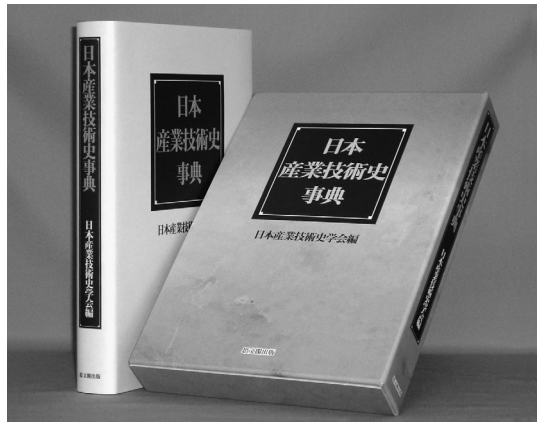
近代日本公園史の研究

丸山 宏 著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

▶ A5判・400頁／定価8,820円

ISBN4-7842-0865-8



足歩行し、手と頭脳を駆使して文明を築きあげてきた。人類文明は、その発生以来ずっと、地球環境がそれまで以前のままであり得ぬように改変することによって成り立たせてきた。逆に言えば、文明は、地球環境に人為的変換を加えることなくしては成立し得ないのだということになる。その最たる要因は、各種資源の地球からの「略奪」であると言えよう。しかし、この「略奪」無しに文明の構築は不可能であつたし、これからもそうである。そのうえで、人類は「モノ」を作り（あるいは「造り」か）続けてきた。バブル経済期（一九八〇年代）の最中、今も続いていることであるが、日本の「モノ作り」離れが加速した。「モノ作り」など日本でやる必要はない、外国へどんどん出すべきだ、わが国はその上澄みを言わば「ピンはね」する金融経済路線を走ればよし、と言ったような論調を各所で聞かされた。「モノ作り」の多くを担ってきたベテラン技術者の退職にあわて、団塊世代の雇用延長をしてみ、果ては今頃になってやっと理数科の強化を、などとあわてる現在の為体ぶりには、おかしさを通り越え、ある種の淋しさをさえ感じさせる。困った時の神頼みではないが、科学技術や産業技術の創造性や振興を史学研究・産業技術史学が、ダイレクトに受けとめられるものではない。一つでも多くのケースヒストリーをもって、この国における産業技術の形成過程を解明してゆくことが、今の私たちに課されている。

近代日本の各産業分野について、往時の背景や所与の条件を折り込み、『日本産業技術史事典』が刊行のはこびとなった。日本産業技術史学会の創立からあと二年で二五周年をむかえる。初代会長（故）吉田光邦先生が懸案とされたことの一つを、二代中岡哲郎、三代後藤邦夫の両先生が中心となり、ここ何年か本当に掛かり切りになって仕上げていただいた。また、多くの執筆者、刊行の労をいとわれなかった思文閣出版の皆様には、紙面をお借りして、御礼を申し上げます。

この『日本産業技術史事典』が、明日の日本の産業技術に資することはなくとも、ほんの少し「振り返り見る」ことと、産業技術史学の確立に寄与できれば、と念願する次第であります。

日本産業技術史学会会長（武庫川女子大学教授）

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会20周年
思文閣創業70周年記念

日本産業技術史学会編 **最新刊**

編集委員：中岡哲郎・後藤邦夫・山口昌伴・三宅宏司・鈴木淳・沢井実・堀尾尚志・麓和善・田中一郎・高松亨・石村眞一・内田星美

【大項目】

- ◎明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する
- ◎「日本の近代」の理解において不可欠でありながら、従来必ずしも系統的・組織的に実施されてこなかった日本の産業技術史研究を23の大項目に分け、関連項目344の小項目としてとりあげて詳述

日本産業技術・維新から1980年代まで／道具（生活道具や工芸関連道具を中心に）／機械／素材（木材と土石）／素材（鉄）／素材（化学）／産銅業／石炭産業／動力と動力システム／鉄道と船／航空機と自動車／情報・通信／生産技術／農業・林業・漁業／食品加工業／繊維と衣服／耐久消費財産業／建築とデザイン／環境技術／学協会と技術者集団／技術者教育／研究開発機関／1980年代の産業技術

▶ B5判・550頁／定価12,600円 ISBN978-4-7842-1345-0

日本の産業技術の形成過程を解明するために

三宅 宏司

私たちの日常生活のほとんどすべての場には、科学技術や諸産業から生み出された「モノ」がふれかえっている。しかし、直接的所産のみならず、それらの開発・生産・使用・廃棄・再利用などのあらゆる段階で多くの問題が発生し、ときには科学・技術・産業などは本質的にマイナスイ面を有していると喧伝されることすらある。いわく、公害・原子力・資源・エネルギー問題等々においてである。現代に生きる私たちは、情報量の増大や経済活動域の拡大にともない、以前ならば知り得なかったもしくは知らなくてもすんだことがらについて、多少なりとも関心を示すか、ときには関与しなければならなくなってきた。人口・食料・地域紛争・難民・温暖化などの諸問題を、政治・経済・体制、ときには宗教（宗派も含め）などのせいにすることはほとんど不可能なことである。さまざまな要因が複雑にからみ合った問題であるだけに、私たちにとって容易に解決の糸口を見出せないでいるのが現状である。

私たちは難問に直面したとき、よく「歴史に学べ」ときかされてきた。人間社会の難問解決のために史学はその存在意義があるのであって、寄与できぬなら「史学不要」といわれることがあるくらいである。実のところ、条件が相異なり、背景がちがいきるからといったようなことを大きな理由として、結局はある特定の筋道を造り、その上をみんな歩んできたのではないか。言葉の有する字義通りに、私たちは「歴史から学んだ」ことが一度でもあったのだろうか。反面、一度もそのようなことはなかったのだから、史学など何の役にも立たない、とも見てよいのか。

貴重な紙面をお借りしておりながら誠に恐縮ではあるが、繰り返言を反復させて頂く。二〇世紀、特にその後半世紀の科学技術や産業技術の進展は、人間の生活に大きな変化をもたらした。親と子との世代間においてさえ、生活のさまざまな局面で大きなギャップを生じさせるほどのライフスタイルの変化をみせた、それらの変化は、人類にとってはそれほど本質的な変化ではないかもしれない。だが、個々人の身体的、生理的な面にまで影響を及ぼしてきているとすれば、自然条件の急激な大変化を除けば、歴史上に銘記されておいてよい変化と言えよう。いわく、大量消費文明、車社会、通信・メディア革命等々である。これらを一つ一つの指標として掲げつつ、先進国としてまた先進国への仲間入りを各国は競っているのである。発生以来、人間は他の動物とは異なり、直立二

大阪砲兵工廠の研究

三宅宏司著

明治3年～昭和20年にいたる大阪砲兵工廠はわが国の産業近代化の中で特異な役割を果たした。本書は、同工廠を支えた技術的諸分野の内容と生産体制、職工の就業実態及びその変遷過程を明かす。

▶ A5判・520頁／定価10,080円 ISBN4-7842-0776-7

石見銀山〔全2冊〕

石見銀山歴史文獻調査団編（編集代表・脇田晴子）14編を収録する「研究論文篇」と、海外6カ国の貿易資料・国内の関係銀山の資料などを集めた「年表・編年史料綱目篇」の2冊構成。国際的な視野から銀山を位置づけた大作。

▶ A4判・各320頁／定価（揃）16,275円 ISBN4-7842-1127-6

鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶ A5判・350頁／定価5,775円 ISBN978-4-7842-1336-8

雑誌『大大阪』CD-ROM

大阪都市協会 企画発行 大正14年～昭和19年

雑誌『大大阪』の全巻約33,000ページをスクナーで読み取りそのままCD-ROM2枚に収録。題名・著者名・刊行年月・分野・キーワード（1論文につき10単語以内で登録済）の5検索が可能。

▶ CD-ROM2枚組／定価99,750円【直販扱】Windows専用

兵範記人名索引

1980(昭和55)年の輪読会発足より蓄積された研究成果を人名索引として集成。(増補)史料大コストを底本とし、男子の部と女子の部の2部構成よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込んだ、古代・中世史研究者必携の一書。

組見本

(左/男子の部)
(右/女子の部)

最新刊

男子部(イ)		女子部(エ・カ)	
3. 6.27	権中納言伊実	加賀殿(仲光の女、藤原忠通の室、素美らの母) 藤原	久寿 2.11. 3 女房加賀局
3. 8. 9	皇(上)后宮(卿)大夫伊実	保元 1. 2.10 女房加賀殿	1. 3. 4 加賀殿
3. 9. 9	皇太后宮権大夫伊実、上	1. 9.21 母室	
3.10.17	公卿皇太后宮権大夫伊実		
3.10.19	皇太后宮権大夫伊実(伊実)	花 子 源	久安 3. 1. 8 澤花子内膳
3.10.20	皇太后宮権大夫伊実		
3.11.21	皇太后宮権大夫伊実	家行の女→小幡中	
3.12.10	伊実	家 子 紀	久安 3. 4.25 故八幡校大僧都光清
3.12.10	皇太后宮権大夫藤原朝臣	久安 3. 4.25 故八幡校大僧都光清	女侍賢門院女房光通殿
3.12.10	伊実	家子(近衛天皇乳母、家致の女、藤原清隆の母) 藤原	仁平 2.10.19 主上御乳母二位
仁安 3. 6.22	皇太后宮権大夫藤原朝臣	久寿 2. 7.23 御乳母二位	2. 7.24 女御二位
	伊実	2. 8. 1 二位	2. 9. 5 御乳母二位
		2. 9.23 二位	
伊 周 源		惟 子 源	久安 3. 1. 8 澤雅子内膳
仁安 3.11.21	内大臣藤原伊周	久安 3.12. 4 澤雅子	
伊 俊		雅頼の母→他俊の女	
1. 3.25	五位殿上人伊俊	鶴 仁安 3. 2.20 主殿司上膳	3. 3.22 先朝主殿司之人
1. 3.29	伊俊		
久安 5.11. 8	散位伊俊	鶴(崇福門院主殿司) 久安 5.10. 2 鶴	
仁平 2. 8.14	左方(左衛門尉)伊俊	鶴 弟 嘉応 1. 4.19 主殿司六人、鶴弟	
	前佐渡守伊俊	寛 子(頼通の女、後冷泉天皇皇后) 藤原	
伊勢阿闍梨(他)		久寿 2. 9.15 四家宮	
仁平 3. 1. 7	伊勢阿闍梨	保元 1. 1. 4 四家宮	
3. 4.29	堀名守五口、五僧		
3. 4.29(義)	伊勢阿闍梨		
3. 5. 1	四僧		
3. 5. 6	五僧		
3.11. 9	伊勢阿闍梨		
3.11.16	阿闍梨		
保元 2. 5.11	伊勢阿闍梨		
2. 5.13	伊勢阿闍梨		
3.12. 4	伊勢阿闍梨		
嘉応 2. 5.10	阿闍梨		
2. 5.12	寺阿闍梨		
2. 5.12(義)	(義二)		
2. 6.22	阿闍梨		
伊勢使王			
仁安 2.11.11	使王		
3. 9. 7	伊勢使王		
3. 9.11	伊勢使王		
3.10. 3	伊勢使王		
3.10. 8	使々三人、使王		
嘉応 1. 2.24	使王		
伊 忠 藤原	大夫伊忠		
仁平 2.11.13	宰相大夫伊忠		
久寿 2.10.30			
伊 長 藤原			
仁平 2. 4. 8	殿上五位殿位伊長		
2. 8.14	散位伊長		
2.11. 6	殿上五位伊長		
久寿 1. 1.30	伊長、大納言大夫		
1. 2. 2	散位伊長		
保元 2. 2.12			
伊 通 藤原	権大納言伊通		
久安 5.10.10	大宮大納言伊通		
5.10.19	権大納言伊通		
5.10.26	権大納言伊通		
仁平 2. 2.13	権大納言伊通		
2. 2.18	上卿、権大納言伊通		
2. 2.25	権大納言伊通		
2. 3. 6	権大納言伊通		
2. 3. 7	権大納言伊通、権大納言		
2. 3. 8	藤原朝臣伊通、院司		
2. 3. 9	権大納言伊通		
2. 3.20	伊通		
2. 5.15	権大納言伊通		
2. 5.19	大宮大納言		
2.10.20	大納言伊通		
2.10.26	大納言伊通		
2.11.11	大納言伊通		
2.12. 2	権大納言		
2.12.22	院司大納言伊通		
3. 1.16	大納言伊通		
3. 1.21	大納言伊通		
3. 3. 5	権大納言伊通		
3. 6.20	同(義)伊通		
3. 9.14	大納言伊通		
2. 4.14	大納言伊通		
2. 5.19	権大納言伊通		
2. 6.26	権大納言伊通		
2. 7.23	大納言伊通		
2. 7.27	大納言伊通、兩納言		
2. 8. 1	大納言伊通		
2. 8. 2	大納言		
勾当少納言内侍			
加賀殿(仲光の女、藤原忠通の室、素美らの母) 藤原			
久寿 2.11. 3	女房加賀局		
保元 1. 2.10	女房加賀殿		
1. 3. 4	加賀殿		
1. 9.21	母室		
花 子 源			
久安 3. 1. 8	澤花子内膳		
家行の女→小幡中			
家 子 紀			
久安 3. 4.25	故八幡校大僧都光清		
久安 3. 4.25	故八幡校大僧都光清		
女侍賢門院女房光通殿			
家子(近衛天皇乳母、家致の女、藤原清隆の母) 藤原			
仁平 2.10.19	主上御乳母二位		
久寿 2. 7.23	御乳母二位		
2. 7.24	女御二位		
2. 8. 1	二位		
2. 9. 5	御乳母二位		
2. 9.23	二位		
惟 子 源			
久安 3. 1. 8	澤雅子内膳		
久安 3.12. 4	澤雅子		
雅頼の母→他俊の女			
鶴 仁安 3. 2.20	主殿司上膳		
3. 3.22	先朝主殿司之人		
鶴(崇福門院主殿司) 久安 5.10. 2	鶴		
鶴 弟 嘉応 1. 4.19	主殿司六人、鶴弟		
寛 子(頼通の女、後冷泉天皇皇后) 藤原			
久寿 2. 9.15	四家宮		
2.10.22	四家宮		
保元 1. 1. 4	四家宮		

▶A5判・484頁／定価9,450円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1358-0

『親信卿記』の研究

佐藤宗諱先生退官記念論文集刊行会編

蔵人の年中行事に関わる一級史料『親信卿記』から四方拝・供立春水など80項目余の記事を抽出・分離し、他本との校訂と内容の研究にとりくんだ一書。

▶A5判・600頁／定価10,290円 ISBN4-7842-1252-3

御堂関白記全註釈 第2期 全8冊

藤原道長の日記『御堂関白記』は平安時代を代表する一級史料。原文・読み下しと詳細な注により構成。

長和4年 290頁／6,300円 (ISBN4-7842-1158-6)

寛弘3年 218頁／5,775円 (ISBN4-7842-1214-0)

寛弘7年 220頁／5,775円 (ISBN4-7842-1260-4)

寛弘4年 220頁／5,775円 (ISBN4-7842-1302-3)

寛弘8年 258頁／6,825円 (ISBN978-4-7842-1350-4)

院政期政治史研究

元木泰雄著

思文閣史学叢書

権門としての摂関家の特質に注目した新たな平安期政治史を提示。さらに平氏政権をとりあげ、諸権門の相剋・対立、職能分離した権門の鼎立に至る過程に迫る。

▶A5判・406頁／定価8,190円 ISBN4-7842-0901-8

荘園公領制の成立と内乱

工藤敬一著

思文閣史学叢書

鎌倉前期に完成する荘園公領制の構造を、その前提にある院政期から鎌倉幕府支配体制の確立へと収束していく在地勢力の内乱、幕府の九州支配の一大特色である小地頭制という政治的社会的あり方とともに究明する。

▶A5判・440頁／定価9,240円 ISBN4-7842-0750-3

摂関時代文化史研究

関口 力著

思文閣史学叢書

藤原道長の時代を中心に上げ、日々の出来事が記される古記録・日記類をもとにして、摂関時代全盛期に生きた人物、および彼らをはぐくんできた社会について考察。

▶A5判・488頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1344-3

日本古代商業史の研究

中村修也著

思文閣史学叢書

商人や市に関わる人々の存在形態を、交易の発生から出雲・平城京・平安京などにおける都市空間の生活の場で解析し、日本古代における商人と商業の実態を明かす。

▶A5判・432頁／定価7,560円 ISBN4-7842-1268-X

●私のノートから●

兵範記輪読会編『兵範記人名索引』と私

佐古愛己

兵範記輪読会は、発足二十七年目を迎えた二〇〇七年五月、これまでの活動の総括として『兵範記人名索引』（統合版）を上梓することになった。

本会の代表を務められ、学部以来の恩師である杉橋隆夫先生のお勧めで、一九九六年四月、私は初めて輪読会に参加した。当時、月一度開催された同会は、立命館大学の大学院生・卒業生のみならず、他大学からも教員・院生が多く集まる和やかな研究会である。しかし、そこでの作業・研究は極めて厳格に進められてきた。

『兵範記』は院政期歴史研究の第一級史料と評価されているにもかかわらず、唯一の活字本として広く研究に用いられている史料大成本『兵範記』（以下、刊本）には、校訂精度の上で問題とすべき点が少なくない。例えば、刊本の解題には、『兵範記』の自筆浄書本残存分を底本とした旨が明記されているが、それへの疑問はすでに公にされている（上横手雅敬「解説」、『陽明叢書一六八 人車記四』、思文閣出版、一九八七）。かかる状況に鑑み、輪読会では、刊本をテキストとしながらも、随時、自筆浄書本（陽明叢書『人車記』・京都大学史料叢書『兵範記』、杉橋氏所蔵の写真帳、京大蔵本のオンライン画像。以下、原本と総称）との校合を実施し、刊本における誤植・誤読・錯簡・脱漏等を精査、修正の上、音読、厳密な考証を施し、人名採集して索引作成に取り組んだ。

さらに、古記録に記載される人名は、実名の他に、時期によって変遷する通称（官職名）などで記される場合

が多く、正確な人名検索を可能にするには、通称で記載された人物の異同・同定を明らかにする作業が必須の前提となる。

周知の通り、『兵範記』の記主平信範は、代々、藏人・弁官など実務の要職を歴任する家系を出自とし、政治的には、治天の君たる鳥羽・後白河兩院司として活躍するとともに、斜陽の摂関家（近衛家・累代の家司として忠実・忠通・基実・基通に仕え、同時に、新興の平清盛の姻戚（清盛室・時子の叔父）に連なるといって、きわめて興味深い立場にあつて、権力中枢部におけるさまざまな情報を入手し、精確かつ龐大な情報を日々書き留めた。それ故、比較的広範な階層に属する多様な人物が登場する。他の記録・文書を参照しつつ人名比定を施した結果、本索引収録の男女人名は、約四二〇〇項目（のべ三万件以上）に上った。その中には、現存する他の同時代史料からは、確認されない人名も少なくない。

また、『兵範記』の現存記事（逸文を含む）は長承元年から元暦元年（一一三二〜一四）に及ぶが、うちまとまった記録は、仁平二年から保元三年（一一五二〜五八）までの七年間分と仁安元年九月から嘉応二年六月（一一六六〜七〇）までの約四年間分である。その間の情報は乏しく、空白期をはさんで表れる人物の考証、すなわち、同一人か別人かの判定は特に難航した。最終年度の夏から秋にかけては、猛暑の中の集中検討会や、学園祭当日、研究室棟の脇ではじまった大音量のバンド演奏の中、作業した時もあった。

兵範記輪読会における叙上の研究過程において、私は多くのことを学んだ。そして杉橋先生をはじめ輪読会メンバーの先生・先輩の方々に親しくご指導いただき、院生の皆さんとのさまざまな交流の機会に恵まれたことは、研究者の道を志して以来十年、私にとって非常に大きな幸せである。

最後に、昨今の研究成果の紹介と課題について触れておきたい。輪読会の活動は、二〇〇二年に認定された立命館大学二十一世紀COEプログラム「京都アート・エントテインメント創成研究」のサブプロジェクト「日本古典における人間と環境——平安貴族とその周辺——」の一端に位置づけられることになった。本プロジェクトは、日本文化の源流「京都」を素材とした歴史学的考察を基軸としながらも、ITやGIS（地理情報システム）等の新技術を用い、地理学、情報分野と連携した学際的な研究に取り組み、新しい研究スタイルの確立を目指している。そこで、人名索引のほか、刊本・校訂本フルテキストデータベース化とこれをベースにした電子図書館の構築、さらに院政期京都の景観や土地利用状況を立体的・視覚的に復原する歴史地図の作製にも取り組んできた。今後は、開発したツールのさらなる改善・革新をはかるとともに、『兵範記』等に記載される貴族の移動に関する研究への利用など、ツール活用方法の工夫による古記録の新しい研究方途の開拓を期したい。



さこ・あいみ

1973年兵庫県生まれ。立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。博士(文学)。立命館大学文学部任期制准教授。

史料 探訪

29

伊勢物語絵を追って

河田昌之
和泉市久保惣記念美術館館長

平安時代の古典文学の中で何が好きかと質問されると答えはさまざまであっても、有名な作品を挙げなさいと言われれば、大方が「源氏物語」や「伊勢物語」と答えるであろう。日本を代表する古典文学として学校の古文の時間に教えられた経験や翻訳本やマンガ本による普及度の高さ、さらには登場人物の個性やあるいは恋をめぐる男女の駆け引きといった内容面で群を抜いていることなどから、「源氏」と「伊勢」は拔群の知名度を誇っている。

しかし「源氏」や「伊勢」が美術や工芸の分野で重要な主題であることをご存知の方がどれほどおられるだろうか。「源氏」や「伊勢」は、平安時代以降、絵巻や屏風の画題として、また硯箱や香炉などの工芸意匠として繰り返し取り上げられてきた。これまで生み出されてきた貴重な絵画や優れた工芸を現在でも観ることができるのは幸いである。

「伊勢」は「源氏」に比べて、題材にされた美術や工芸の現存数が少ないというのが実状である。作品数の多少の原因については別に譲るとしても、現存する「伊勢」の美術作品はいずれも特徴があり、それらを丁寧に観ることをとおして、誰が何のために制作し鑑賞してきたのか、現在まで大切にされてきた理由は何かなど、いろいろと思いをめぐらすことは誰しも心惹かれるところであろう。

「伊勢」は相手を見初めた感動を歌にして贈る男、待った甲斐もなく夫に去られた女、カキツバタが咲く水辺で恋人への想いを歌に詠んで皆に涙させる男、男と駆け落ちしたが途中で息絶えた女など、「おとこ」と「おんな」の間柄を昔ごととして語り、和歌とともに短い話で綴られている。男女をめぐる恋の明暗ばかりでなく、男同士の友情や権勢への言及までもある。

このような物語の世界を鮮やかな顔料で彩り豊かに描いた現存する最古の作品が、鎌倉時代後期（13C. 後期～14C. 初期）の制作になる重要文化財「伊勢物語絵巻」（和泉市久保惣記念美術館所蔵・写真1）である。詞2段、絵8段からなる断簡で、元来一具を成していたと考えられる詞の断簡が伏見天皇宸翰として宮内庁御物にある。この絵巻は他の伊勢物語絵と異なる特徴を備えている。建物の長押や柱などが作る直線と鋭角に幾何学的な形態感覚がたどられ、汀、垣根や屋台などの型紙使用、地に金銀箔の砂子や野毛、微塵を撒いて装飾するというように構図や装飾法に特徴がある。また物語に記載されていない動植物を細密に描く点も他の伊勢物語絵には見られない。たとえば第23段「河内越え」の場面で、男が身を隠す垣根にカタツムリと青虫、菊にマツムシやスズムシが描かれているほか、画面右上

の土坡に鎌を振り上げたカマキリ（写真2は90°左に回転して掲載）がいる。そのポーズを不思議に思っていたが、数年前にスライドを使って話をしている時に、大写しされた画面でカマキリの側にバッタがいることに気づいて長年のモヤモヤが晴れた。この絵巻を観続けて15年ほど経ってからの偶然の発見によって、鎌を振り上げたカマキリの姿が自然の摂理に基づいて描かれていることが納得でき、絵師の企てが少しずつわかってきたのであるから、このような体験をすると作品を観ることが面白くなる。

学芸員は直接作品を精査でき、テーマに沿った作品を集めて展覧会を開催することができる。作品の探索を新たな作品の公開につなげ、それらが独自に有している個性、絵師や工人たちの技倆、各時代の趣向や美意識などを明らかにするための切り口を提供して、一般の方々に学芸員が感じたことや美術を観ることの喜びが伝えられればと思っている。

今、この秋に開催を予定している伊勢物語を題材にした絵画、工芸を展示する特別展の準備をしている。その過程で、鎌倉時代の制作になる作品が2点新たに出陳されることになった。1点は出家した惟喬親王が隠棲する小野の山荘を主人公が尋ねる第83段「小野の庵」と解される作品。



▲写真1 重要文化財「伊勢物語絵巻」河内越え



◀写真2 カマキリ(右)とバッタ(90°左に回転)

もう1点は梵字経を捺した白描伊勢物語絵巻の断簡で第47段詞と第100段絵を1幅にした作品である。いずれも久しく公開されていない名作であるため、出陳の許可をいただいたときは夢が適い気分が高揚した。

ここ数年来、伊勢物語を主題にした絵巻と絵本を調査する羽衣国際大学日本文化研究所の研究プロジェクトに参加して海外調査にも同行し、国内外の貴重な伊勢物語絵を観る機会を得た。また奈良の不退寺の業平忌に列席したり、三河の八橋として著名なカキツバタの無量寿寺廻り、宇津の峠、東京の隅田川に架かる言問橋界限など物語に関連する地も探訪している。そんな経験と今回の特別展の準備で出会った美術作品を介して、伊勢物語が幅広い階層に愛好されてきたことをあらためて実感している。「源氏」の「絵合の巻」で伊勢物語絵巻について藤壺の中宮が「在五中将の名をばえくたさじ(汚すことはできない)」と評した言葉を思い浮かべながら、さらに作品を追っている。

—MEMO—

開館25周年記念 特別展「伊勢物語 ——雅と恋のかたち——」

会 期 平成19年10月6日(土)～11月25日(日)

伊勢物語を主題とした絵巻や屏風、硯箱など約140点を前・後期に分けて展示し、能楽の囃し方の演奏や聞き香のイベントも行います。

(展示予定作品) 重文「伊勢物語絵巻」(和泉市久保惣記念美術館蔵)「八橋図屏風」酒井抱一筆(出光美術館蔵)
重美「蔦の細道蒔絵硯箱」(畠山記念館蔵)ほか

〒594-1156 大阪府和泉市内田町3-6-12

和泉市久保惣記念美術館

TEL 0725-54-0001 FAX 0725-54-1885

URL <http://www.ikm-art.jp>

江戸時代唐船による 日中文化交流

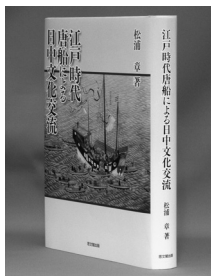
松浦章 著

最新刊

鎖国政策下の江戸時代において、「唐船」と呼ばれる中国帆船の往来が日中文化交流の大動脈を担い、長崎を窓口とした「唐船」による通商関係は、舶来文化の受容において重要な役割を果たした。本書は日中双方の史料を用いることで、日本側の視点のみから論じられることの多い長崎貿易を多角的に論じる。永年この分野に取り組んできた著者の最新成果をまとめた論集。

【内容】

江戸初期の日中交流
清朝中国と日本
中国商人と日本
中国から見た長崎貿易
日本人の中国漂着の一面
幕末明治初期の日中交流の変容



まつうら あきら…1947年生。関西大学アジア文化交流研究センター長・関西大学文学部教授。

▶ A5判・472頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1361-0

近世長崎・ 対外関係史料

9月刊行

太田勝也 著

近世の長崎町方や対外関係に関する史料4点を活字化。詳細な注と解説を付す。

【内容】

『長崎御役所留』（国立公文書館内閣文庫所蔵）

長崎奉行所に受け継がれて来た文書・記録類をもとに編纂されたもので、長崎奉行所が受けた老中からの奉書をはじめとする諸下知等が収められており、編纂物ではあるが、この種の現存史料としては唯一の第一級のもの。寛永16年(1639)から宝永7年(1710)にいたる71年間分。

『長崎諸事覚書』（国立公文書館内閣文庫所蔵）

長崎関係の史料としてはもっとも初期に成立した一つ。寛文12年(1672)から始まる画期的な貿易仕法である貨物市法の成立期に長崎奉行所で編纂したもの。

『長崎記』（東北大学附属図書館狩野文庫所蔵）

長崎奉行中川忠英の手になるもので、かなり具体的に富む記事を多く有す。

『長崎旧記』（筑波大学附属図書館所蔵）

おおた かつや…1943年生。筑波大学大学院教授。

▶ A5判・680頁／定価16,800円

ISBN978-4-7842-1362-7

朝鮮通信使の研究

李元植著

通信使の訪日における交歓、すなわち筆談と詩文唱和の文事こそ両国の善隣友好を支えた基調であるとの視点から、数多くの貴重な文献・史料を検証し、交歓の実態を明らかにする。

▶ A5判・736頁／定価15,750円 ISBN4-7842-0863-1

中国銅銭の世界 錢貨から経済史へ

宮澤知之著

【佛教大学鷹陵文化叢書16】

中国貨幣の主役の位置を占めていた銅銭の歴史を中心に、先秦～明代までの中国貨幣史の流れを考察。文献学と考古学と古銭学とを組み合わせ、現在の中国貨幣史の到達点を利用した中国貨幣通史。

▶ 46判・332頁／定価2,520円 ISBN978-4-7842-1346-7

「封建」・「郡県」再考

張翔・園田英弘編 東アジア社会体制論の深層

「封建」と「郡県」という伝統的大概念を多角的に検討し、その論理的枠組や時代的要請による理論的發展の構造を解明しようとする13篇。

▶ A5判・412頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1310-4

黄檗文化人名辞典

大槻幹郎・加藤正俊・林雪光編著

日本の近世文化にカルチャーショックを与えた黄檗文化の総合辞典。黄檗僧はもとより檀越・外護者・学者・画家などの黄檗文化形成に寄与した人物伝(900人)のほか、黄檗法系譜と総索引を収録。

▶ A5判・720頁／定価15,750円 ISBN4-7842-0538-1

鎖国時代長崎貿易史の研究

太田勝也著

【思文閣史学叢書】

寛永鎖国の成立期から正徳新例に至るまで、幕府の貿易政策を徹底追究。長崎貿易史において重要課題である糸割符仕法・正徳新例などの展開を数量的考察とともに実証的に体系づけ、随所に新見解を示す。

▶ A5判・664頁／定価14,490円 ISBN4-7842-0706-6

長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期～18世紀中期の長崎奉行の職掌や幕府内における位置づけの変化、長崎奉行自体の特質が変質してゆく状況を解明し、その背景となる幕府の経済政策の推移などについても考察を加える。

▶ A5判・420頁／定価6,510円 ISBN978-4-7842-1339-9

近世日蘭貿易史の研究

鈴木康子著

【思文閣史学叢書】

近世日蘭貿易を複合的な視点から詳細に追究し、近世における状況と推移を明かす。国内史料を中心に、オランダ東インド会社のアジア貿易史料等も紹介。

▶ A5判・480頁／定価10,080円 ISBN4-7842-1178-0

漂流記録と漂流体験

倉地克直著

漂流体験は、奉行所や藩で作られる公式記録のほか、民間でもさまざまな形で残された。本書は、1830年に漂流した神力丸の漂流記録を丁寧と比較検討し、漂流記録の史的価値について一つの試論を示す。

▶ A5判・352頁／定価7,875円 ISBN4-7842-1225-6

中世・近世の 村と地域社会

最新刊

西村幸信（元柳沢文庫学芸員）著

大和を中心とした中世・近世の村落構造に関する著者の遺稿集。第一部には、村落中間層のあり方に注目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める（解説：仁木宏・村井良介・谷山正道）。

〔内容〕

14・15世紀大和における沙汰人・庄屋層の歴史的位置
中世後期鶴庄の「政所」と在地社会の動向
今堀日吉神社文書の村掟とその署判
中近世移行期における侍衆と在地構造の転換
中近世移行期の在地祭祀と地域社会 ほか

▶ A5判・400頁／定価6,510円

ISBN978-4-7842-1353-5

戦国期関東公方の研究

阿部能久著

〔思文閣史学叢書〕

関東府の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・一向宗などの寺社勢力との関係、武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景などを探る。

▶ A5判・320頁／定価5,985円

ISBN4-7842-1285-X

幕藩権力と寺院・門跡

杉田善雄著

〔思文閣史学叢書〕

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世寺社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することにより、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。

▶ A5判・320頁／定価7,560円

ISBN4-7842-1166-7

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著

〔思文閣史学叢書〕

在地（荘園）をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収めた。永年、京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者の成果。

▶ A5判・400頁／定価8,190円

ISBN4-7842-1325-2

織豊期の茶会と政治

竹本千鶴著

名物茶器をしつらえた茶会の場を室町殿中の座敷飾りが段階的に発展した「大名茶湯」として捉え、中世史の中に位置付け、織豊政権における支配構造の一側面を茶会の場を通して明らかにする。

▶ A5判・494頁／定価7,875円

ISBN4-7842-1318-X

近世社会と百姓成立 構造論的研究

渡邊忠司著

〔佛教大学研究叢書〕

近世社会において零細な高持百姓はいかにして自らの生活や農耕の日常を凌いでいたのか。近世社会における「百姓成立」について、領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組編成、質入の検討により解明。

▶ A5判・330頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1340-5

瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著

〔思文閣史学叢書〕

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。

第一部 瀬戸内海社会の形成と展開／第二部 瀬戸内海社会の発展と地域権力／第三部 地域権力と織田権力の抗争

▶ A5判・390頁／定価7,560円

ISBN978-4-7842-1333-7

戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界

鹿毛敏夫著

〔思文閣史学叢書〕

西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明らかにする。

▶ A5判・300頁／定価5,775円

ISBN4-7842-1286-8

相国寺蔵 西笑和尚文案

自慶長二年
至慶長十二年

伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編

秀吉・家康のプレーンとして、寺社政策・外交政策に辣腕を発揮した相国寺中興の祖・西笑承兌の発給した書状の案文をまとめた『西笑和尚文案』全10冊を、紙背文書も含め初めて活字化。

▶ A5判・380頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1343-6

丹後地域史へのいざない

上田純一編

歴史を「地域」の視点から見つめ直そうという気運の高まりつつある中、古来独自の歴史や文化が育まれてきた京都府下の丹後半島地域を、政治・経済的さらに住民の視点から総体的に解明する試み。

▶ 46判・184頁／定価1,680円 ISBN978-4-7842-1348-1

三藐院 近衛信尹

さんみやくいん この え のぶ ただ

残された手紙から

前田多美子著

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として日本書道史上にその名を謳われてきた近衛信尹。本書では信尹の生涯を彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにする。

▶ A5判・270頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1299-X

稲賀繁美編（国際日本文化研究センター教授）

伝統工芸再考 京のうちそと

過去発掘・現状分析・将来展望

和服や仏壇が海外で作られる現在、「工芸」の将来を見据えて国際日本文化研究センターで行われた共同研究の報告書。気鋭の美術・工芸・文化・経済・行政の専門家および実作者36名による論考。

【最新刊】

❖ 目 次 ❖

序章 「工芸」の脱構築のために——「伝統工芸」を再考するに先立ち——（稲賀繁美）

I 「伝統」の諸相 ～正倉院からユネスコ無形文化遺産まで～

（木村法光／リチャード・ウィルソン／玉蟲敏子／土田真紀／佐野真由子）

II 東西の往還 ～明治期・世紀末の輸出工芸～

（樋田豊郎／横溝廣子／柏木加代子／今井祐子／畑 智子／鶴飼敦子／後藤結美子）

III モダニズム美学と装飾デザイン ～20世紀前半の工芸・美術・産業～

（稲賀繁美／佐藤敬二／磯部直希／林 洋子）

IV 東アジア工芸の近代 ～工芸産業と海外進出の軌跡～

（西原大輔／朴 美貞／徐 蘇斌／青木信夫／西楨 偉／戦 暁梅）

V 美意識の相克と価値観の葛藤 ～思想運動としての工芸～

（関 周植／鈴木禎宏／吉村良夫）

VI 経営と流通の国際的変貌 ～アジアの生産現場瞥見～

（金谷美和／ひろいのぶこ／伊藤奈保子）

VII 伝統工芸の現在 ～当事者の立場から～

（龍村光峯／山田 実／栗本夏樹／中村錦平）

VIII 将来への展望 ～行政施策の推移から21世紀への提言～

（岸本康志／柿野欽吾／西口光博／大滝幹夫／原田平作）

終章 工芸の将来あるいは「ものづくり」再考（稲賀繁美）

▶ A5判・880頁／定価13,650円



ISBN978-4-7842-1357-3

エドモンド・ドゥ・ヴァール著
金子賢治監訳・解説／鈴木禎宏解説
北村仁美・外館和子訳

バーナード・リーチ再考

スタジオ・ポタリーと陶芸の現代

日英両国における近代的な個人作家としての陶芸家の登場、アーツ・アンド・クラフツ運動や民芸運動といった思想運動の系譜、美術大学系の陶芸家との対峙、作家活動と工房の有様など、さまざまな議論を孕んだ存在となったバーナード・リーチ。現代英国を代表する気鋭の陶芸家であり、批評家でもある著者による真摯な愛情に基づく鋭い批判的論評。第一線の専門家による解説を付し、本書全体を通じて現代陶芸論を試みる。

【9月刊】

【内 容】

バーナード・リーチほか3篇（ドゥ・ヴァール）
対談（エドモンド・ドゥ・ヴァール&金子賢治）
解説（鈴木禎宏／金子賢治）

▶ A5判・288頁／定価5,040円

ISBN978-4-7842-1359-7

布がつくる社会関係

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌

金谷美和著

染色業者カトリーと彼らの生産する布について民族誌的記述を行い、布の生産・使用によって構築される社会関係について論じる。

▶ A5判・336頁／定価6,510円 ISBN978-4-7842-1341-2

民芸運動と地域文化

濱田琢司著

民陶産地の文化地理学

大正後期に創始した民芸運動という工芸をめぐる文化運動と三つのやきもの産地（小鹿田・小石原・益子）との影響関係を主な事例にそって考察。

▶ A5判・320頁／定価5,145円 ISBN4-7842-1288-4

増補 蓮月尼全集

村上素道編

蓮月の歌・消息・伝記を収めた『蓮月尼全集』（昭和2年）に、新収の歌集、書画帖（花くらべ）、消息53通を増補した昭和55年版の復刊。

▶ A5判・710頁／定価12,600円 ISBN4-7842-0182-3



書評・紹介一覧 3～7月掲載分		※(評)…書評 (紹)…紹介 (記)…記事〔敬称略〕	
中国文人画家の近代 (評)比較文学 49号(戦暁梅)	中世日本の政治と文化 (評)日本史研究 537号(熊谷隆之)		
日中親族構造の比較研究 (評)古文書研究 63号(成清弘和)	織豊期の茶会と政治 (評)茶の湯文化 13号(田中秀隆)		
近世地域教育史の研究 (評)日本歴史 707号(鈴木理恵) (評)日本史研究 539号(定兼学)	文学に見る痘瘡 (評)千葉県医師会雑誌 59巻4号(内田勝久)		
正倉院文書の国語学的研究 (評)日本史研究 706号(沖森卓也)	長崎奉行の研究 (紹)西日本新聞 5/22朝刊(本と書評)		
民芸運動と地域文化 (評)地方史研究 57巻2号(西海賢二)	相国寺蔵 西笑和尚文案 (紹)中外日報 5/10 1・2面		
戦国大名の外交と都市・流通 (評)日本歴史 208号(桑田和明)	摂関時代文化史研究 (紹)『週刊読書人』7/27号(木本好信)		
中国近世における国家と禅宗 (評)中国図書 19巻3号(河田悌一)	中国銅銭の世界 (紹)キュリオオマガジン 2007年5月号 (紹)月刊収集 32巻5号 (評)東方 317号(井上正夫)		
俊頼髄脳の研究 (評)国文学解釈と鑑賞 72巻5号(岡崎真紀子)	丹後地域史へのいざない (記)京都新聞 4/17夕刊 (紹)月刊 えふ 07年5月号		
十九世紀日本の園芸文化 (評)史学雑誌第116編3号(遠藤真由美) (評)日本史研究 538号(有坂道子)	布がつくる社会関係 (紹)月刊染織 α 317号		
禁裏・公家文庫研究 第二輯 (評)日本歴史 709号(内田澄子)	八瀬童子 (記)京都新聞 4/20朝刊 (記)中外日報 5/22新緑読書特集面 (記)京都新聞 6/3読書面 (紹)神道フォーラム 7/15通巻16号		
ヴィクトリア朝英国と東アジア (評)比較文学 49号(小沢自然)	日本産業技術史事典 (記)産経新聞 7/23朝刊 (紹)日本経済新聞 8/5朝刊		
戦国期関東公方の研究 (評)日本歴史 709号(江田郁夫)	バーナード・リーチ再考 (記)新美術新聞 7/1(外館和子)		
中世京都の都市と宗教 (評)史学雑誌 116巻6号(三枝暁子)			
太宰文学の女性像 (評)昭和文学研究 54号(山岸郁子) (評)キリスト教文学研究 24号(洪明嬉)			

3月から7月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本 回数	巻数	巻タイトル	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
大手前大学比較文化研究叢書	4	4	夏目漱石における東と西	1335-1 C3390	07012656	0854633	07650195	2,940	3
佛教大学鷹陵文化叢書	16	16	中国銅銭の世界	1346-7 C3022	07016410	0855571	07648942	2,520	3
技 術 と 文 明	29	15巻2号		1354-2 C3320	07704759		07784242	2,100	4
経 済 史 文 献 解 題			2005(平成17)年版	1351-1 C3321	07025120	0859633	07835457	14,490	4
花 園 院 宸 記	16	25		1356-6 C3321				399,000	5
御 堂 関 白 記 全 註 釈	5	第2期第5巻	寛弘8年	1350-4 C3321	07030651	0861379	07937543	6,825	6

3月から7月にかけて刊行した図書

図 書 名	著 者 名	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
近 世 社 会 と 百 姓 成 立	渡邊忠司	1340-5 C3021	07017960	0856378	07703192	6,825	3
摂 関 時 代 文 化 史 研 究	関口力	1344-3 C3021	07016443	0855642	07718588	9,450	3
長 崎 奉 行 の 研 究	鈴木康子	1339-9 C3021	07019237	0857670	07725716	6,510	3
オランダにおける蘭学医書の形成	石田純郎	1338-2 C3022	07014446	0855099	07693906	7,140	3
丹後地域史へのいざない	上田純一編	1348-1 C1021	07016452	0855897	07718570	1,680	3
東大医学部初代総理池田謙斎(下)	池田文書研究会編	1337-5 C3021	07014591	0855618	07693989	8,190	3
相国寺蔵 西笑和尚文案	伊藤真昭・上田純一・ 原田正俊・秋宗康子編	1343-6 C3021	07020753	0857959	07768161	7,350	4
ブ ラ ー ム ス と 芭 蕉 た ち	吉江久彌	1355-9 C1010	07025126	0859734	07835440	2,100	4
日本古典随筆の研究と資料	糸井通浩編	1349-8 C3090	07020721	0858065	07768179	7,560	4
八 瀬 童 子	宇野日出生	1352-8 C1021	07024004	0859186	07826753	1,890	4
日中戦争についての歴史的考察	明石岩雄	1347-4 C3021	07019242	0857755	08051625	5,775	4
布 が つ く る 社 会 関 係	金谷美和	1341-2 C3039	07024009	0859084	07826761	6,510	4
鉄 道 日 本 文 化 史 考	宇田正	1336-8 C3021	07020755	0858056	07768203	5,775	4
兵 範 記 人 名 索 引	兵範記輪読会編	1358-0 C3021	07029435	0860670	07899818	9,450	5
中世・近世の村と地域社会	西村幸信	1353-5 C3021	07035804	0863507	08027880	6,510	6
日本産業技術史事典	日本産業技術史学会編	1345-0 C1050	07040944	0865012	08099053	12,600	7

(表示価格は税5%込)

思文閣会館ご使用のご案内

思文閣会館には、各種テナント、フリースペースなど、
賃貸物件・日貸しスペースが各種ございます。

2F催事場：展覧会や講演会など

多目的小ホール(3F・33号室)：会議や勉強会、
趣味のお稽古場、ちょっとしたお集まりなど

B1F：テナント募集中

3・1・B1F：医学専門書店・事務所
飲食店等

みなさまのご利用をお待ち申し上げております
くわしくは思文閣企業株式会社まで

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7
☎075-751-1751 FAX075-751-1752
<http://www.shibunkaku.co.jp>

思文閣美術館ご案内

さきおり

裂織展—そのルーツと未来—

2007年9月15日(土)～10月14日(日) 10:00～17:00
月曜休館(但し、祝日の場合翌火曜休館)



本展では、東北や日本海沿岸の古い裂織資料と、公募展「第4回全国裂織展」の入選作品を展示し、裂織のルーツと未来に迫ります。

●記念講演会&裂織講習会

9/15(土)午後2時「裂織の起源」
講師：田中忠三郎氏(北海道・東北民芸学会会長)

9/29(土)午後2時「裂織の未来性」
講師：眞田岳彦氏(文芸研究家女子美術大学・大学院教授)

10/5(金)「ミニタペストリー作り」
①午前10時半～12時 ②午後1時半～3時
定員：各15名 ※有料・要予約

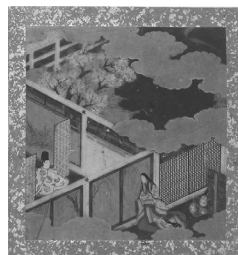
お問合せ

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7
TEL075-751-1777 FAX075-762-6262
<http://www.shibunkaku.co.jp/artm/>

思文閣出版古書部

※古典籍を中心に古文書・古写経・絵巻物・古地図・錦絵などから学術書全般に至るまで、あらゆるジャンルの商品を取り扱い、目録販売を中心に営業しております。

※「思文閣古書資料目録」(年4回程度発行)をご希望の方は、古書部までお問い合わせ下さい。



『源氏物語画帖』一帖

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東元町357
☎(075)752-0005(代) Fax.(075)525-7155
URL <http://www.shibunkaku.co.jp/>
e-mail kosho@shibunkaku.co.jp

▶ていたいむ余録◀

20年前、田舎から京都に出てきて最初に祇園祭の宵山を歩いたとき、「祭りとは人を見るものだ」と思いました。何と無知で、祭りの楽しみを知らなかったことか。わが故郷にも実は『祭りのしつらい』に掲載されている祭りがあって、そのころ60年に1度という大祭をしていたのですが、興味はあったものの結局何も見ませんでした。ああ、あのころに『祭りのしつらい』が出版されていれば！ (h)

▶表紙図版◀

バーナード・リーチ《野兎文皿》1918年および1923年に朝日窯出身の松林鶴之助が設計したリーチ・ボタリー2番目の登り窯のスケッチ
(Bernard Leach, *A Potter's Book*, Faber & Faber, 1949/『バーナード・リーチ再考』より)

▶営業部より—日本産業技術史事典—◀

日本史専門書を主とした版元ではあるものの、その内訳は政治、文化、科学、美術、文学など多岐にわたり、案内すべき先へ情報が行き渡っていないのでは？といった自問自答の日々です。

この度、表題書籍を刊行しました。当書に関しては特にその感があります。“近代化遺産・産業遺産・機械遺産”といったキーワードと絡めると莫大な案内先があります。そこで出版社の基本に立ち返り、ご活躍いただきたいのが顧客情報を把握する書店の皆様。くまなく書店様へは情報が行き渡ることを心がけた営業を行って参りましたが、もし「まだ情報が入っていない」といった書店様がございましたらお叱りのご連絡を頂戴したく存じます。 (江)

刊行図書目録の最新号(2007年版)をご希望の方はお申しつけ下さい。

株式会社思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 ☎075-751-1781(代) FAX.075-752-0723
<http://www.shibunkaku.co.jp/> e-mail: pub@shibunkaku.co.jp